

ESG情報開示コンサルティングサービス

Starter Pack



ESG 開示の第一歩を

ESG への対応が急務となっています

投資家が企業の経営や企業価値を判断する材料として ESG 情報に対する関心が近年大きく高まっており、グローバルでのサステナブル投資残高は2022年で30.3兆米ドルを超えるまでになっています。また、日本でも有価証券報告書やコーポレートガバナンス・コードにおいて、サステナビリティ方針、気候変動や多様性などへの取り組みに対する開示が求められており、義務の観点からも 企業の ESG への対応が急務となっています。

ESG 情報は、開示して初めて評価されます

現状、企業の ESG に対する評価の中核となっているのが FTSE や MSCI、Sustainalytics といった ESG 評価機関によるレーティング です。これらの評価機関の評価を得るためには、ESG への取り組みを行うだけでなく、ESG 情報を開示することが必須となります。

ESG 開示の第一歩をご支援します

問題意識がありながら、何から手を付けるべきか分からないという企業が多いのが現状です。ESG に関する情報開示の最初の一步を適切に踏み出せるご支援を、このサービスではご提供します。

対象企業

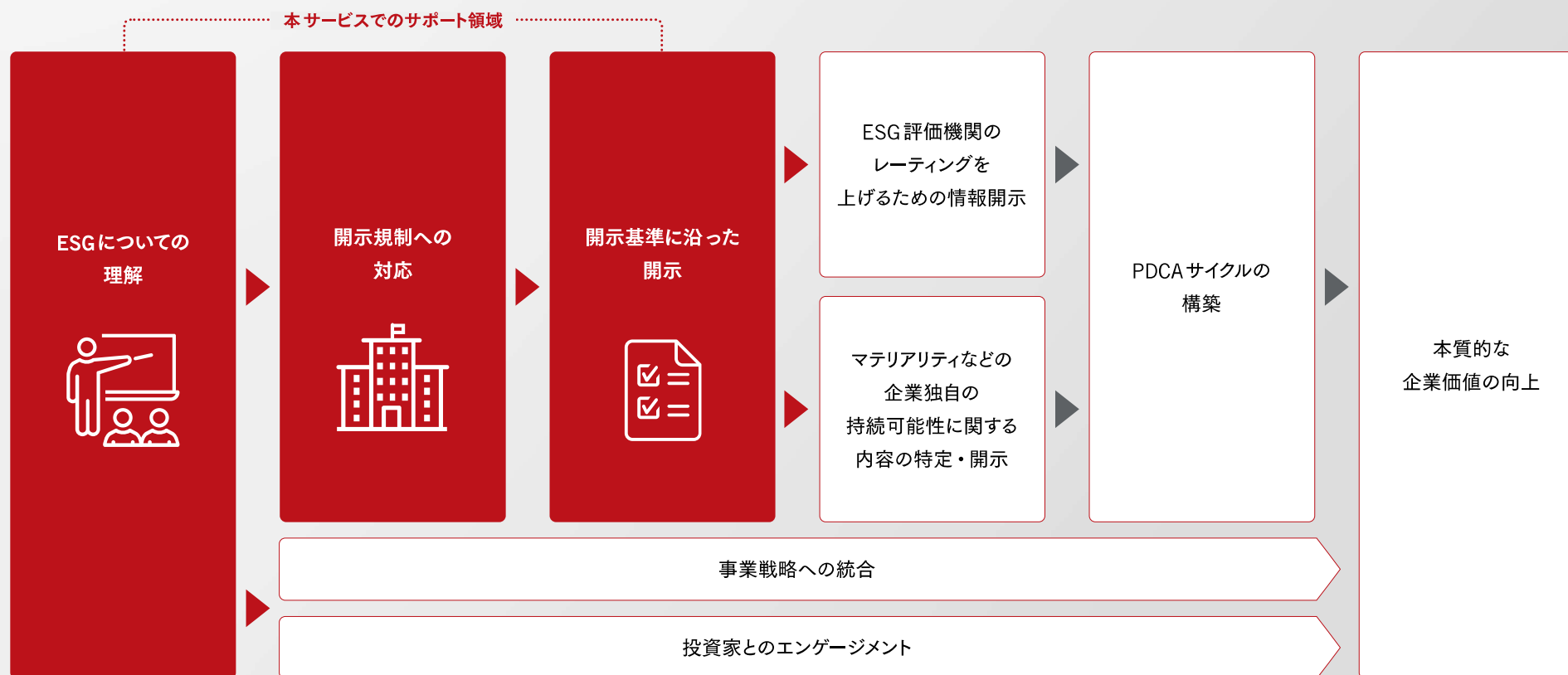
これから ESG に関する情報開示を注力し始めようとしている、以下のような事項に該当する企業

- ESG や SDGs に関する情報発信を適切にしたい。
- ESG や SDGs 関連のトレンドを理解したい。
- ESG 評価が気になる。
- 制度開示書類での ESG 開示対応に困っている。



ESG 情報開示の基礎の構築に向けて

企業価値の向上には、ESG 情報開示の充実が不可欠となっていますが、
ESG 情報開示には様々な評価基準や規制が混在しており、何から手を付けるべきか判断が難しいのが現状です。
本サービスでは、ESG 情報開示の高度化に向けて基礎となる部分の構築をサポートします。



サービス概要



ESG 研修会

ESGに関する動向や開示規制、ESG評価への対応の意義などについての研修会を実施します。



ESGレーティング分析

主要 ESG 評価機関における現状の評価を調査します。レーティングが付与されていない場合は、同業企業を中心としたベンチマーク調査により、貴社の立ち位置を分析します。



ESG 指標開示支援

貴社の業種等に応じた最低限開示すべき ESG 指標を提示します。

気候変動情報開示支援

TCFDフレームワークに沿った情報開示支援や、競合企業も含めた他社の開示事例紹介を行います。








ESG データブック制作支援

ESG 情報を効率的に「開示」する基礎資料となるデータブックの制作を支援します。

注：ESG 関連のインデックスへの組み入れを保証するものではありません。
また、個別の ESG 評価機関の回答支援には対応していません。

リードタイム

	2週間	4週間	6週間	8週間	10週間	12週間	14週間	16週間
全体の流れ	— 研修 —>	— 現状分析 —>			— 開示に向けた準備 —>		— 開示 —>	
 ESG 研修会 P.5	→							
 ESGレーティング分析 P.6		→						
 ESG 指標開示支援 P.7				→				
 気候変動情報 開示支援 P.8				→				
 ESG データブック 制作支援 P.9							→	

注：情報収集など、貴社に実施していただく作業に要する期間も含んでいます。なお、こちらのリードタイムはあくまで目安となっています。

ESG 研修会

Agenda

1. ESGの重要性

- ESGとは
- 企業へのESGインパクトについて

2. 投資家の動き

- ESGと責任投資
- パッシブ運用とアクティブ運用に沿った開示

3. ESG情報開示の充実化に向けて

- 開示規制への対応
- 開示基準を利用した開示
- 企業独自のESG情報開示

補足トピック：ESGとSDGsについて

目的

ESGの動向や規制、ESG評価への対応の意義を理解していただくことにより、今回のご支援内容の効果を高めます。

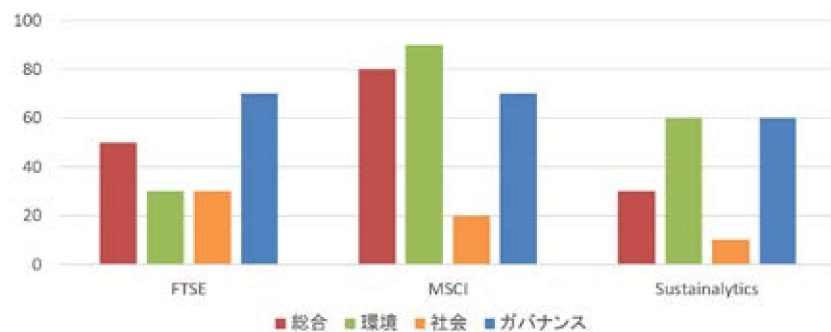
実施内容

- 弊社からのESGに関するご説明：40分
- 質疑応答：20分

注：最大延長90分、実施回数は1度です。なお、対面、もしくはリアルタイムのオンラインで実施します。

ESGレーティング分析

評価比較



出典：各社評価レポートよりEDGE作成。各社の評価を横比較するため、100点満点に標準化している。

- 主要3機関のESG評価を比較すると、大きなバラつきがある。MSCIの評価は高いが、Sustainalyticsの評価は低い。
- 環境については、評価テーマの少ないMSCIでは高評価だが、評価テーマの多いFTSEとSustainalyticsの評価が低く、開示テーマの拡充が望まれる。
- 社会については、全体的に低いため、共通評価テーマから開示を拡充するとよい。
- ガバナンスについては全体的に高評価のため、現在の開示を継続すれば問題ない。

注1: 上記画像はあくまで掲載用のサンプルです。成果物のサンプル資料も用意しています。

注2: お手元に評価レポートがない場合は、評価レポートの有無の確認や、評価機関への送付依頼をお願いします。なお、本メニューでは当該3機関に限定しています。

目的

貴社のESG評価の現状を俯瞰的に把握し、どのような項目が評価対象となっているかを明確にします。

実施内容

- ① グローバル、日本、どちらにおいても主要なESG評価機関である、MSCI・FTSE・Sustainalyticsによる3機関の評価レポートを調査します。
- ② 高評価、低評価の項目等、評価状況を整理します。

打ち合わせ回数：調査書のご説明(1回)

ESG 指標開示支援

ESG指標・開示推奨リスト	
カテゴリ	指標
環境	GHGスコープ1
	GHGスコープ2
	GHGスコープ3
	GHG排出 総量
	XXXXXXXX
	XXXXXXXX
	XXXXXXXX
	XXXXXXXX
	XXXXXXXX
	XXXXXXXX
社会	従業員数 (及び女性比率)
	XXXXXXXX
	XXXXXXXX
	XXXXXXXX
	XXXXXXXX
	XXXXXXXX
	XXXXXXXX
	XXXXXXXX

注1: 上記画像はあくまで掲載用のサンプルです。成果物のサンプル資料も用意しています。
 注2: 選別過程には、グローバルなサステナビリティ情報開示基準であるSASBスタンダードや、「ESGレーティング分析」の結果などを用います。SASBスタンダードについては詳細を後述しています。

目的

優先して開示すべき指標を明確にするとともに、社内情報の棚卸しを進めます。

実施内容

- ① 貴社の業界特性などの状況を鑑みて、弊社にて選定した開示すべきESGに関連する約30指標を提示します。
- ② 貴社内でご提案指標が社内で入手・開示できるかの確認、および情報収集を実施していただきます。
- ③ 収集結果を踏まえ、ESGデータブック等での開示に向けたアドバイスをを行います。

打ち合わせ回数：①及び③ 各1回

気候変動情報開示支援

開示推奨項目	開示する際に考慮するとよい項目	貴社開示状況	貴社開示に関する備考	最低限開示できるとよい項目	他社事例	事例説明
ガバナンス						
a	○	○○社
b	○	○○社
戦略						
a	△	○○社
b	△	○○社
c	△	○○社
リスク管理						
a	×	○○社
b	×	○○社
c	×	○○社
指標と目標						
a	×	○○社
b	×	○○社
c	×	○○社

注1: 上記画像はあくまで掲載用のサンプルです。成果物のサンプル資料も用意しています。
 注2: 本メニューでは、GHG排出量算定や、シナリオ分析、機会リスク財務分析に関するご支援は含みません。
 注3: 気候変動に関する取り組みが少ない場合は③(1)、ある程度あり、開示をこれから注力される場合は③(2)、どちらかのご支援となります。

目的

気候変動関連財務情報開示は有価証券報告書での記載が義務化されました。その基礎となる情報の収集・開示に向けて、TCFDフレームワークを用いたご支援を行います。

実施内容

- ① TCFDフレームワークに基づく開示チェックリストを提供します。
- ② 貴社にて社内情報収集を行っていただきます。
- ③ (1)他社事例を踏まえ、今後の取り組みの優先順位付け等を提示します。
(2)棚卸しされた社内情報の整理、他社事例を踏まえ、開示に向けたご支援を行います。
- ④ 開示に向けた原稿のレビューを行います。

打ち合わせ回数：各1回(①及び③)

ESG データブック制作支援

ESGデータブック						
		単位	パワシティ	カバー率	2020年3月期	2021年3月期
環境						
気候変動						
GHG 排出量	GHGスコープ1	CO2-t	グループ	97%	XXXX	XXXX
	GHGスコープ2	CO2-t	グループ	97%	XXXX	XXXX
	GHGスコープ3	CO2-t	グループ	97%	XXXX	XXXX
	計	CO2-t	グループ	97%	XXXX	XXXX
XXXXXX						
社会						
従業員数						
従業員数	総数	人	グループ	100%	XXXX	XXXX
	女性比率	%	グループ	100%	XXXX	XXXX
XXXXXX						

注1: 上記画像はあくまで掲載用のサンプルです。成果物のサンプル資料も用意しています。

目的

データブックとしてまとまっていることは投資家をはじめとするステークホルダーに有益であり、その制作をご支援します。特に開示基準やESG評価機関は「データ」としての開示要求が多く、文章が多いレポートより、データブックがより効率が良いと考えられます。

実施内容

- ① 「ESG 指標開示支援」に基づく指標をPDF等のデータブックとして開示できるように、その枠組みをご提供します。
- ② 投資家やESG評価機関の要求を踏まえ、編集上のポイントを盛り込みます。

なお、ご提案指標以外の指標追加も可能であり、初回のご支援後も貴社自身で継続的にアップデートができる仕様となっています。

オプション ESG 推進 アドバイザリー



目的

プロジェクトにまつわるご質問は随時承りますが、本オプションではそれ以外の ESG 関連のご質問もお受けします。トレンドが早く新しい話題も多いため、自社内での情報収集は非効率になることもあります。定期的なご相談機会を設けることで、全体的な ESG 推進の効率化をサポートします。

実施内容

- 月1回1時間程度、フリーディスカッションを実施。その時間内で ESG 関連のご相談、ご質問に対応いたします。
- 上記の時間以外でも、必要に応じ、メールやお電話等でのご対応も随時行います。(月2件程度)
- 原則3カ月、または6カ月の契約となります。
- ご質問対応に大きな調査負荷がかかる場合には、別途御見積をさせていただくことがあります。



SASB スタンダード

2011年、米国にてFASBのサステナビリティ版という位置づけでSASBは設立されました。投資家向けの情報開示基準として、11セクター77業種における業種別のサステナビリティ指標のSASBスタンダードを2018年11月公表しました。

2021年6月、SASBは国際統合報告フレームワークを提唱するIIRCと統合しVRF(価値報告財団)が設立し、2022年8月にVRFは国際的な会計基準団体であるIFRS財団に統合しましたが、SASBスタンダードは現在も使用可能です。ISSB基準でも産業別開示としてSASBスタンダードの考慮が求められています。

同スタンダードはBlackRockやState Streetといった多くの資産運用会社が投資判断材料として使用しています。また、世界ですでに1,280社以上の企業がこのスタンダードに沿った情報開示をしています。

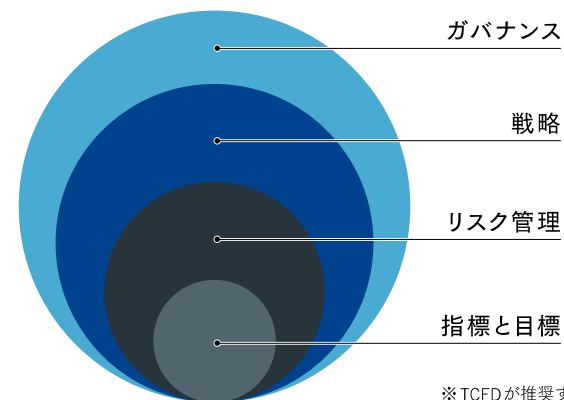


TCFD

金融安定理事会が気候変動リスクに対する金融セクターの方針を検討するため、2015年12月にTCFD(気候変動関連財務情報開示タスクフォース)を設立しました。

ミッションは気候変動がもたらすリスクおよび機会の適切な情報開示の枠組みの開発です。2017年6月に開示フレームワークである「最終報告書」を公表し、投資家向け気候変動関連の開示フレームワークとして最も利用されており、デファクトスタンダードとなっています。TCFDというタスクフォースは2023年10月にその役目を終え、解散となりましたが、フレームワークは現在も活用されています。

2021年6月のコーポレートガバナンス・コード再改訂においては、プライム市場上場会社に対し、「TCFDまたはそれと同等の枠組みに基づく開示の質と量の充実を進めるべきである。」と示されました。2023年6月に提出される有価証券報告書から義務化されたサステナビリティ開示においても、TCFDフレームワークの考え方は参考とされています。



※TCFDが推奨する、気候関連財務情報における中核的要素。

Mission

(私たちの存在意義)

企業価値デザインカンパニー®

ストーリーとデザインので企業経営をサポートし、
社会全体の成長に貢献する

Vision

(私たちが目指す姿)

Integrated Story Co-Creator

Values

(私たちの価値観)

Edge, Logical, Initiative

お問い合わせ先

株式会社エッジ・インターナショナル

営業担当: 黒原哲也

✉ edge@edge-intl.co.jp